

20. 豪族（ごうぞく）のあつまりによって政治を進めた古墳時代

古墳時代はどんな時代だったのかな？古墳時代のひとつ前の時代は、弥生（やよい）時代だったわね。弥生時代には田んぼで米づくりが始まり、ムラムラの人たちをまとめていくリーダーが日本各地に現れました。そうしたリーダーたちがさらに大きな力をもつ「豪族」に成長して、そしてその中から「王」が出現します。古墳時代になると、この「王」を中心にリーダーたちが話し合いながら日本の国づくりを始めたの。その中心が今の奈良県や大阪府だったから、日本で一番大きな古墳である仁徳陵古墳も大阪に造られたと考えられています。

古墳時代はリーダーたちの話し合いで国づくりを進めていたけれど、飛鳥時代になると、当時の先進国だった中国にならって、王を中心に国づくりを進めました。「律令（りつりょう）」と呼ばれる法律ができあがり、役人たちが役割を分担しながら政治を進める国に変わったの。日本の古代国家は、まさしく東アジアの交流のなかで生まれたのね。